

(様式1)

県立高校指定校事業（令和4年度指定） 3年間計画書

学 校 名	神奈川県総合高等学校 高等学校 (全・定・通)	校 長 名	川島 勝
指定名	グローバル教育研究推進校		
研究主題	変化し続けるグローバル社会で生きぬくための実践的なコミュニケーション能力、人間関係形成能力と、持続可能な社会をめざすための課題発見能力を身につけ、様々な背景を持つ人々とともに主体的・協働的に課題解決に取り組もうとする人材を育成する。		
3年間の目標 (3年後のめざすべき姿)	単に知識で終わらない活用可能な知識と、予測不可能な未知の状況に対応できる柔軟な思考力・判断力・表現力を身につけ、現代社会に存在する数多くの課題に対して主体的に思考することのできる人材を育成する。授業、特別活動など様々な活動を通して、価値観の異なる他者と積極的に対話し、協働的に問題解決に取り組む姿勢を身につけるよう学校全体で取り組む。		
3年間の 研究内容	<p>(1) 研究主題の設定理由とこれまでの本校における取組</p> <p>① 研究主題の設定理由</p> <p>本校生徒は英語を初めとする外国語の能力はある程度高いが、授業で学んだ知識・技能を生かし、課題解決を図るための思考力・判断力・表現力は十分とは言えない。昨年度までの指定校事業に引き続き、自ら「問い」を見つけ批判的に思考する主体的な取組みをさらにすすめ、変化し続ける国際社会で活躍できる人材を育成することが必要と考えられる。</p> <p>② これまでの本校における取組</p> <p>授業改善を実施し、課題発見能力、批判的思考力の育成を目的に、総合的な探究の時間と各教科とで連携を図り「思考力・判断力・表現力」を中心に新学習指導要領の3観点を意識しながら授業改善を行った。</p> <p>また、多角的な世界観を育成するために開発教育的な視点を意識した講演会、パネルディスカッション、ワークショップは実施できたものの、外部施設・外部資源を活用したミニスタディツアーは、コロナの影響で実施ができなかった。</p> <p>これまでに引き続き、グローバルキャンプや、ワールドカフェなどの行事を開催し、持続可能な社会をめざす多角的なディスカッションを実施した。各教科の授業の中でも持続可能な社会を目指すために何をすべきか、討論を行い、認識を高め、実践的な行動に結びつける。</p> <p>(2) 研究の内容</p> <p>① 生徒の多角的な視野を育成するための行事の開催</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ミニスタディツアー、グローバルキャンプ</li></ul> <p>多角的な視野を育成するために、多様な価値観の共有できるような「異文化」に関する講演を通じて、グローバルな社会的課題を発見し、実践的に行動することの大切さを認識する。また、外部施設や外部資源を活用したミニスタディツアーを企画していく。</p> <p>② 外国語によるディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ グローバルキャンプ、ワールドカフェ</li></ul> <p>学問を横断的に学ぶ姿勢や、文化および言語の多様性を受容する力、クリティカルシンキング（批判的思考）力、幅広い視点と深みのある洞察力を身につけさせることを目的に、希望者を対象に実施し一定の成果を収めているが、さらに深い学びに結びつくよう事前学習、事後学習のあり方、当日のプログラムなどの改善を検討する。</p> <p>④ 実践的な外国語運用能力の育成</p> <p>外国語の外部検定試験の受験を積極的にすすめ、その結果に基づいて個々の生徒の進路に応じた受験ができるよう説明会等で情報提供を行い、生徒の外国語運用能力の育成を図る。</p> <p>⑤ 文化的多様性のある学習環境の充実を図る</p> <p>海外パートナー校交流や受け入れ留学生、授業等における大学生のインターンとの交流などの機会を積極的に活用するために教員間で共通認識を持ち、組織的に連携して、既成概念にとらわれない多面的・多角的な思考を育成する。</p> <p>⑥ 第二外国語の学習と国際フィールド科目の学習</p> <p>英語以外の外国語に接する機会や、グローバルな視野や思考、異文化に対する理解をすすめるフィールド科目などの学習を通して柔軟で多面的・多角的な視野を身につけさせる。</p>		

	<p><b>(3) 成果の検証方法及び成果指標</b></p> <p>アンケートや、生徒の意見聴取を行うことで、形成的な評価を行いその後の教育活動に生かしていく。また日常の授業についても生徒による授業評価の質問事項等でその成果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「魅力と特色ある県立学校づくりについて」における「課題の発見と解決に向けて、主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、思考力・判断力・表現力を高めることができた」(A-4)の向上について検証する。</li> <li>・「生徒による授業評価」における「単元の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」(小項目2)と「他者の考えを知ることにより、新たな考えを知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」(小項目5)の向上について検証する。</li> </ul> <p>国際的な行事について、その事前指導、事後指導も含めてアンケートや生徒の意見聴取を行い、その内容を分析し、検証する。</p>
<p><b>研究計画の概要</b></p>	<p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルかつ地域に根ざした視野の育成 グローバル社会で必要とされる多角的で幅広い世界観を育成するために、世界を俯瞰する国際関係的な視野を獲得すると同時に、西欧、東アジア、アフリカ、中東、ラテンアメリカなどの各地域から捉えたローカルな視点で多様な価値観に触れ、対話的・協働的な学びの蓄積を行う。また、外部施設や外部資源を活用したミニスタディツアーの具体的な企画をたてる。ポストコロナにおける国際交流の方法を模索する。</li> <li>○持続可能な社会を築くための問題意識の共有 「Sustainable Development Goals」に示されている視点を中心に、持続可能な社会をめざすために必要な課題を授業や学校行事の中に積極的に題材として取り上げ、ディスカッションをとおして具体的な行動へつなげるように問題意識の共有をすすめる。</li> </ul> <p>令和5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な価値観を持つ人々との問題意識の共有 問題解決にむけた柔軟で総合的な思考力・判断力を高めるとともに、多様な価値観を持つ様々な人たちと、どのようにして互いの問題意識を共有することができるかという視点を意識して授業改善や行事の内容の見直しを図る。</li> <li>○協働的な取組みの基礎となる人間関係調整能力の育成 対話を通して協働的に問題解決を図る人間関係調整能力を育成する実践の場として、総合的な探究の時間を含む授業、国際的行事を中心とした学校行事を活用する。また、より効果的に実践の場を生徒に提供するために、手法や方法論等の手立てを学ぶ教員研修を実施する。</li> <li>○持続可能な社会を築くための方法を模索 「Sustainable Development Goals」に示されている視点を中心に、各教科において持続可能な社会をめざすために必要な課題を取り入れた授業や学校行事を実施する。</li> </ul> <p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバル社会で生き抜く力の育成 未知な状況に対して柔軟で総合的に思考・判断した自らの考えを、分析的・論理的・批判的に表現し、それを様々な価値観を持つ人たちと共有し、ディスカッションより高次の思考へと止揚していくことで、情報・人・物などがボーダーレスに行き交い変化してやまない国際社会を生き抜く力を育成する。その成果として、2年間続けてきた学校全体で「Sustainable Development Goals」に関する諸問題について、生徒の発表の場を設ける。</li> </ul>
<p><b>研究体制</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善については研究開発グループが計画と運営を担当し、各教科と連携しながら進めていく。</li> <li>○総合的な探究の時間について、「問い」をたてて見通しをもって研究を進める手法を研修し、各教科はそれを参考にしながら教科横断的な取組を模索していく。</li> <li>○「Sustainable Development Goals」を題材に、国際諸問題について学校全体で考えを深めていく。</li> <li>○国際的行事については国際交流グループを中心に、研究開発グループや活動支援グループと連携しながら、行事の内容がより効果的なものになるように過去に実施された調査等にもとづいて検討をすすめる。</li> </ul>
<p><b>その他特記事項</b></p>	<p>グローバルキャンプ、ワールドカフェ、パートナー校交流等の国際的行事については、コロナ禍においても継続的に実施していくために、その内容、日程、運営などについて検討する必要がある。</p>